

【担当教員】

伊藤 敦美

【教員室または連絡先】

物質・材料 経営情報 1号棟509室

【授業目的および達成目標】

〔授業目的〕

本講義は日本における進路指導・キャリア教育の理論的展開および、現在における諸問題について理解することを目的とする。また工業科教員として生徒に職業指導を行うことのできる実践的指導力の基礎を育成することを目指す。本学の「教育目的 2」「技術科学を開発し実践する者の社会に対する責任を自覚」することを深めることも企図している。

〔達成目標〕

- 1) 職業指導に関する諸理論及び歴史的背景を説明することができる。
- 2) 学校教育における職業指導・キャリア教育の現状を理解する。
- 3) 職業指導を行うことのできる実践的指導力の基礎を身につける。

教育・学習目標

○ 日本における進路指導・キャリア教育の理論及び現在における諸問題を理解し、職業指導を行うことのできる実践的指導力の基礎を身に付けている。

【授業キーワード】

職業、職業構造、進路指導、キャリア教育、進路選択

【授業内容および授業方法】

〔授業内容〕

職業指導に関する基礎理論・歴史的流れを把握し、学校教育における職業教育の重要性を理解する。また小学校・中学校・高等学校・大学における職業指導の現状を理解し、その課題について考える。さらに実際に職業指導に関して指導できる力の育成を図る。

〔授業方法〕

講義形式を主体とするが、随時、講義時間内に課題作成を課す。また数回、課題・レポートを課す。

【授業項目】

- 第1回 職業指導とキャリア教育 学校教育におけるキャリア教育の必要性
- 第2回 キャリア教育の基礎理論
- 第3回 日本におけるキャリア教育の歴史 戦前・戦後を通じて
- 第4回 日本におけるキャリア教育の現状 児童生徒の意識、中教審答申など
- 第5回 中学校・高等学校における職業指導
- 第6回 大学における職業指導
- 第7回 小中高におけるキャリア教育の推進 (1) (小学校・中学校)
- 第8回 小中高におけるキャリア教育の推進 (2) (高等学校)
- 第9回 産業界・地域社会とのかかわりとキャリア教育
- 第10回 職業指導の方法・技術
- 第11回 職業指導の課題
- 第12回 職業指導・キャリア教育の評価
- 第13回 キャリア教育と心理分析
- 第14回 外国におけるキャリア教育 (1) (ドイツ・フランス・イギリス)
- 第15回 外国におけるキャリア教育 (2) (アメリカ)

【授業時間外学習（予習・復習等）】

学習効果を上げるため、教科書等の該当箇所を参照し、授業内容に関する予習を90分程度行い、授業内容に関する復習を90分程度行うことが望ましい。

【教科書】

教科書は指定しない。随時プリントを配布する。

### 【参考書】

文部科学省『高等学校 キャリア教育の手引き』2012年。  
国立教育政策研究所『キャリア教育のススメ』東京書籍、2012年。  
有本 章編『現代の職業と教育』福村出版、1991年。  
三村隆男『キャリア教育入門』実業之日本社、2008年。  
仙崎 武・野々村 新他編『入門 進路指導・相談』福村出版、2000年。

### 【成績の評価方法と評価項目】

学習理解の確認（テスト）60%、講義中の課題・レポート30%、授業への取組（授業中の発言や態度）10%により評価する。  
試験の実施時期については授業で周知する。講義内容全般についての理解度を確認する。試験の際の資料等の持ち込みは不可とする。授業への取組は、授業中の態度、授業中の発言、欠席状況等を総合的に査定する。

### 【留意事項】

工業教科（高校）の教員免許状を取得するための必修科目である。  
授業開始時に授業の進め方及び受講のルールを記したプリントを配布するので、それらに同意の上で履修登録をしてください。